

吾峰 新潟

令和7年9月6日



交流会で、お会いしましょう。

同窓吾峰会新潟県支部 支部長 真柄 正幸

宮川サト子様の「賀寿の祝い」、誠にありがとうございます。宮川さんにおかれましては、これまでの年1回の交流会に仲間の皆様とご一緒に参加していただき、元気な姿で私たちを励ましてくださっています。また、交流会終了時には、「来年も交流会でお会いしましょう。」と笑顔で話されています。

今年度の交流会も、宮川さんを始め、会員の皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。私自身、交流会は大学卒業以来の会員との出会いや懐かしい会員との久しぶりの再会、新たな会員との出会いなど、新鮮な出会いへの期待感で交流会を心待ちにしています。

近年、私が特に思うことは「縁」と「健康」の大切さです。年齢を重ねるごとに、子の成長とともに孫が増えるなど家族の縁は広がりを見せていますが、退職前の職の縁や同窓の縁、地域の縁などは薄くなってきていると感じています。また、健康面においては、老化現象に適応することの大切さを痛感しています。

このような中、交流会は「縁」を確認できる場であり、新しい「縁づくり」の場でもあります。交流会に一人でも多くの会員の皆様から参加していただき、楽しく語り合える機会になることを心より願っています。

大学の先輩や同僚・後輩の皆様への恩返しのつもりで支部長をお引き受けしましたが、役員の方々の協力を得ながら、「参加してよかった。」「来年もまた会いましょう。」と言い合える交流会になるように、努めて参りたいと考えております。

会員の広場

近況、趣味、雑感、etc.皆さんから寄せられた
原稿やメッセージを紹介します。

「竹トンボ」を作る楽しさを伝えたい

佐渡・新穂 昭和42年卒 佐藤 八郎

私が子どもだった昭和三十年代は食べ物も満足になく、着る物も兄のお古が普通でした。しかし、遊びの世界は無限に広がっていたように覚えています。山では木登りをしながら木の実を採り、川では泳ぎながら魚採りに熱中し、さらに遊び道具も兄や年上の友達から見様見真似で覚え、「竹トンボ」作りでは、友達のものよりもっと高く飛ぶものを作ろうといつも燃えていました。

さて、「平成・令和の時代」と言えば、携帯電話やパソコンを操作する子どもたちの指の動きは見事で、私たち中高年にはとても真似が出来ません。でも、日本人が本来持っている「道具」を器用に使いこなす技が廃れていくのではと少々心配になり、退職後十数年間、小・中学校で開かれる「竹トンボ教室」に関わってきました。

「竹トンボ」にとって重要な要件の一つに、素材である「竹」の良し悪しが問われます。よく乾燥したもので、薄く削っても折れたり曲がったりしないことが大事です。しかし、最近の佐渡の竹に「黄」信号が点灯してきました。その大きな原因の一つが間伐されず竹林が荒れ、折れやすくなってきたことです。佐渡の素晴らしい財産である竹林を今手入れしないと竹の子も満足に生えません。

第二の要件は「小刀」です。良い鋼を使って鍛えられた小刀で竹を削るとその削り屑は紙のように薄くなります。でも、そんなに高価でなくても十分に研ぎこんだ小刀はそれなりの切れ味を示してくれます。最近はカッターも数多く出回っているので、用途によって使い分けることが大切です。

第三の要件は削る「技」です。子どもたちがどんなふうに小刀を使うのか見極めるためにいつも鉛筆を削ってもらいます。初めて削ったという子どもが十人中七、八人いるので小刀の使い方や鉛筆の出来上がり状況からこの先怪我をせず竹トンボが出来るかどうかを見極めます。最初は子どもたちの前で試作品を作りながら作業の手順や小刀の安全な使い方を教えた後に竹トンボ作りに取り掛かってもらいます。子どもたちはみんな一所懸命に取り組んでいます。でも、ハラハラ・ドキドキの連続です。出来上がったという作品に対してはそれなりに修正を加えてから軸を取り付け。「さあ！完成だよ。良く出来ているよ」と言うと、すぐに体育館に走って行って夢中になって飛ばしています。

子どもたちに何かを教えたり伝えたりするときに思い出す言葉の一つに、山本五十六の「してみせて 教えてやって させてみて 褒めてやらねば 人は動かず」があります。いつの時代にも通じる含蓄のある言葉だと思っています。

残念ながら今回も欠席です。当日、十日町市で県スポ推の大会があり、五泉市から3名出席（小生含む）そちらに参加。

<S34 堰 勝弥>



漫画家のやなせたかしさん・暢さん夫婦をモデルにしたNHK朝ドラ『あんぱん』（今田美桜主演、北村匠海助演）を視聴しています。

その関わりで、先日『月刊いちごえほん』（昭和57年サンリオ発行）を本棚から探しました。その中に「いちごこどもはいく」という欄があり、主に小学生が投稿したこどもはいくをやなせさんが選んで絵もつけてくれていました。その時やなせさんからこんな講評をいただきました。『こどもはいくはますます面白くなってきましたが、今月は新井市立水原小学校のみなさんのものがとくべつによいものがたくさんありました。のせられなかったものも、ほとんどすべてよかったといえます。字もきれいでとてもよみやすくありがたかったのです』

福島大学を卒業して2年目の私は、初任校で担任した6年生11名の子どもたちと大喜びしたことを今も覚えています。43年前の大切な思い出です。

退職して10年が過ぎ、年齢も古希となり体力の衰えを感じています。少しでも健康年齢を伸ばそうと週1～2回の市の健康教室こいこいスポーツ教室の貯筋トレーニングに参加しています。その成果なのか分かりませんが今のところ体調は良好です。これを続けて長く健康で過ごせるようがんばりたいと思うこの頃です。異常な暑い夏ですが、元気な姿で皆様とお会いしたいと思います。

<S53 伊田 勝則>

6月28～29日に秋田市で開催の第68回秋田県スポーツ推進委員研究大会にお招きいただき基調講演を行いました。アトラクションで竿燈を初めて直に観、本物を持たせてもらいました。その日に福大の1年後輩の佐々木時夫君が来てくださり卒業以来の旧交を温めることができました。

私の次女が東京での教員から新潟に移り、長岡市の小学校で勤務しております。長岡市民の娘が長岡花火の抽選に応募し当選したので8月2日に初めて観賞することができました。思った以上に良い席だったので迫力に感動。白菊とフェニックスには涙が止まりませんでした。

<S50 篠田 邦彦>



庭仕事の毎日（雑草）

梅を酢で漬けたものを1年経ったので梅だけいただきました。酢を処分しようと雑草に撒きました。1週間くらいして見るとまっ赤になって枯れました。恐るべし酢の力。

<S49 今野 浩>

毎朝、夕6:00に庭木、鉢物に水をやることで、その日の活動が始まり終わる。水をやっている、からだシャキッとして背筋が伸びる。水やりが終わるとその日の朝食、夕食になる。

鉢植えのブドウ（デラウェア）が5房実をつけている。実が色づいてきたので、これから楽しみである。

気力、体力を充実させ、酷暑を乗り切り、爽やかな秋を迎えたいものである。8.1記

<S33 横山 進>

先日、高湯温泉にてバイト（当時）先でその仲間（先輩方）と集まってきました。大学には行っていないが、桃を買う人が並んでいたり、福島が賑わっている様子を感じて懐かしさにプラスの感動を味わうことができました当時の仲間、地、懐かしさにふれることはいいものだなあと実感しました。

<S55 横山 千恵>

晴耕雨読

私は10月になる米寿の時代が終ります。日々晴耕雨読の生活で安全な食材を自分で作る生活です。時々新谷弘実氏の病気にならない生き方(全3)を再読しています。氏は「人間の体は本来病気にならないようにできている」と。自然界で病気になるのは人間とペットと動物園の動物だけと述べています。
＜S35 石塚 幹彦＞

4月から週5日、1日6時間働いています。趣味の時間は少なくなりましたが楽しいです。いろいろなお知らせ、ありがとうございます。改めて福島大学を卒業できたこと、免許状を頂いたことに感謝しています。交流会の盛会を祈念しております。

＜S55 石川 敦子＞



スイカズラ (ニンドウ、キンギンカ)「スイカズラ科」

昭和51年度卒 山本 武

5、6年前から我が家にスイカズラが住み着いていますが、どうして芽生えたのか分かっていません。鳥が種子を運んで来たのかな、と何となく推測しています。

スイカズラ(吸い葛)は、花の甘い蜜を吸ったことから名付けられ、英名は Japanese honeysuckle です。花が白から黄色に変化することから金銀花(キンギンカ)、冬も枯れずに残っていることから忍冬(ニンドウ)の別名もあります。また、ミツバナ、スイバナ、スイスイバナ、ニンドウカズラ、といった別名(方言)もあります。

昭和50年代に青春を過ごした方は、♪ 貴方の愛した 人の名前は～ ♪と「わかって下さい」を歌った因幡晃をご存じだと思います。その因幡晃は、「忍冬」という曲で、♪～忍ぶという字は 難しい 心に刃(やいば)を乗せるのね 時々心がいたむのは 刃(やいば)が暴れるせいなのね ♪と歌っています。



学校が好きすぎて定年退職後もなかなか引退できずにいます。市内の小学校で非常勤講師をして楽しく子どもたちと活動(?)しております。
＜S56 中村 恵子＞

新潟支部の活動を通して、心豊かな方々と知り合いになれました。95歳の宮川サト子先生からは人生の機微を学んでいます。今後会員の輪の広がりと深まりを期待しています。
＜S56 村山 稔＞

大学を卒業して小学校教諭をしております。今年度9年目です。昨年度より、現職の派遣制度で大学院で学ばせていただいております。
＜H29 本宮佑二郎＞



編集後記

会員の皆様から素敵なメッセージをたくさん寄せていただきました。ありがとうございました。載せきれないものは次号で紹介します。

「温故知新」=ふるきをたずね、新しきをする。「温」はあたためるではなく、「たずねる」と読みます。この漢字には「よみがえらせる」という意味もあるのだそうです。昔を知ることが、新たなものの見方や価値に気付く大切な機会となります。同窓吾峰会で楽しく語り合い旧交を「温めましょう。(S)

